

石田三成年表

1560年	田原	石田	市川	長生	泉源	賀正	滋野
1574年	秀はる	豊自	下	共官	と仕	兄に	父吉
1583年	従	い	戦	の	と	性	小賤
1584年	び	よ	あ	役	偵	軍	先
1585年	就	白	関	の	従	臣	豊
1592年	(現)	城	に	の	の	の	大
1595年	考	の	の	の	の	の	し
1597年	援	七	七	成	三	田	豊
1598年	な	身	襲	襲	襲	襲	襲
1599年	件	襲	襲	襲	襲	襲	襲
1600年	り	襲	襲	襲	襲	襲	襲



嫌われ者のイメージだが 本当はどんな人??

頑固で嫌われ者のイメージが本当はどのような人物だったの姿に迫るため、石田三成に「三献の茶」を見てみましよう。

豊臣秀吉が鷹狩に当時に三成が預けたお茶に立ち寄りました。喉が渴いていた秀吉は三成にお茶を出してくれるように頼んだところ、最初にぬるめのお茶をたぐり出して、次に先ほどより少なめの量で少し熱めの茶を出し、最後に熱い茶を少量出しました。



大谷吉

「家紋に込めた思い」

このように茶の入れ方一つにも気配りができるところを秀吉は大変気に入り、三成は秀吉に召し抱えられることになりました。

「大谷吉継との絆」

大谷吉継は重い皮膚病を患っていました。ある茶会で茶の出し飲みをしていった所、吉継の番の時に類から膽が茶碗に入ってしまった。そのための茶碗を回せなくなり、しまった。吉継に対して三成は、「喉が渴いて待ちきれない、早く回せ」と言うので一気にその茶を飲

石田三成新聞

音更町立 共栄中学校
1年B組
清水 杏

強い石田三成ですが、のどしどう? 本当はまっわるエピソード

「大万大吉(だいいちだいまんたきち)と読み、その意味は、「一人が万民のために万民は一人のために尽くせば、天下の人々は幸福(きふ)になれる」というものです。



「おはよう、おやすみ、おはなりの、語りにつなげよう」

朝の挨拶は「おはよう、おやすみ、おはなりの、語りにつなげよう」

市タ 光三 観三 長三

今でも地元の人に愛されている三成

大一大万大吉(だいいちだいまんたきち)と読み、その意味は、「一人が万民のために万民は一人のために尽くせば、天下の人々は幸福(きふ)になれる」というものです。

三成が殺された後、残された三成の子供達は一人も殺されることなく寿命を全うしました。また、家康の孫である徳川光圀は著書の中で「三成ははにかからざるものなり。人それぞれの主のために行い義にまよって、心を奮い立たせ事を為す。そのため仇といえども憎むべからず。君臣ともに良く心得るべきである」と

三成は「カリスマ性はなく、融通の効かない頑固な嫌われ者」のイメージで描かれることが多いですが、実際のエピソードを調べてみると、思いやりにあふれた真、直ぐな人である人であることがわかりました。紹介できなかったエピソードは、興味のある方は、



書いたありません。おそらくこれは家康の気持ちも代弁しており、家康は三成を決して憎んでいたのではなく、むしろ豊臣家に対する忠誠心を高く評価していたと考えられています。

三成が「カリスマ性はなく、融通の効かない頑固な嫌われ者」のイメージで描かれることが多いですが、実際のエピソードを調べてみると、思いやりにあふれた真、直ぐな人である人であることがわかりました。紹介できなかったエピソードは、興味のある方は、

ぜひ調べてみて下さい。

今回石田三成をテーマにした理由は、「信長考吉、家康」といった教科書で取り上げられていない勝者側ではなく、敗者にどんな歴史があるのか興味をもったからです。実際調べてみると、私の知らなかったエピソードがたくさんあり、面白いな人だなと思いました。もし関ヶ原の戦いで三成が勝っていたらどうなっていたのか想像したら、楽しい気持ちになりました。